

本日、医学部長会見に結集せよ！

10日大学協議会全国示も。大衆団交貫徹！

二月六日医学部長との会見以降、われわれの戦線の中に、危険な動きが表われはじめている。それは、二、六会見の評価をめぐり、それを基本的な勝利とみなすところからストライキ体制をゆるめ、ひとまず安定めざりという動きである。

この動きは、明らかに誤りであり、われわれ医学部民主化共闘の闘いを弱め、敵勢力に利するものである。

一、ハシ多郎部長△△目名は勝利であつたか？

二、△△部長会見での確認書△△項は次のようにのべている。

① 現在の医学部全体で、紛糾している情勢をもたらししたのは、教授会が11月28日に決定した民主化基本綱領を具体化する段階で、否定したためであることを自己批判する。

だが、必要なことは、医学部民主化基本綱領を否定したことについて自己批判することである。この確認文書では、教授会はこの点に、われわれ医学部民主化共闘を中心とするストライキとズワリ込みにする斗い（ハシ多郎）が無ければ、自己批判をみとめていないことをいみじくも表明している。そして、それが、彼等の本心であり、したがって、△△項のような、まやかしの欺瞞的被害の主要な目標なのである。

△△項は次のようにのべている。

② 民主化基本綱領、存らばにその主体化系である共同協議会と全面的に密着する。又、この案を教授会と医学部民主化共同協議会の統一案としてこの大学の大学協議会に正式発表する。但し、共同協議会とは別に確認されたものである。

この項でのべられていることは、つまりるところ、医学部民主化共闘から提示した異体案を、医学部における民主化の一つの「案」として、今後なおいくつが提示されるであつた。案々と並列的に扱うということである。大学協議会に対しては、民主化綱領の承認を求め、提案としてではなく、「発言」として報告するということを約しているにすぎない。

ストライキ切は明し
ちねらう教授会△△

これの意味するところは、

△一に、医学部としての決定を再び、無制限に引きのばしたことであり、△二に、教授会としては「承認」するといふことによつて、責任を解消し、医学部民主化共闘の斗いのホコ炭をかゝすことをねらつたものであり、△三に、われわれの斗いの強化の中で、教授会も一応「事前合意制」をみとめたとはいえ、教員会、教授組との四者協議会で、今後の交渉をタラタラと続けることにより、民主化基本綱領の空洞化をはかることをねらつたのであつた。

つまりるところ、この確認書は、現在の医学部の大多数が要求するに至つていゝ「民主化基本綱領」を裏切りに移すといふ本質的傾向に何らせまつてはいないといふことがその本質であつた。

即ち、この確認書は、ストライキの長期化とその影響におどろいた教授会が、ストライキを切り崩す目的をもち、ことりかへたものといわねばならぬ。

へうらに続く